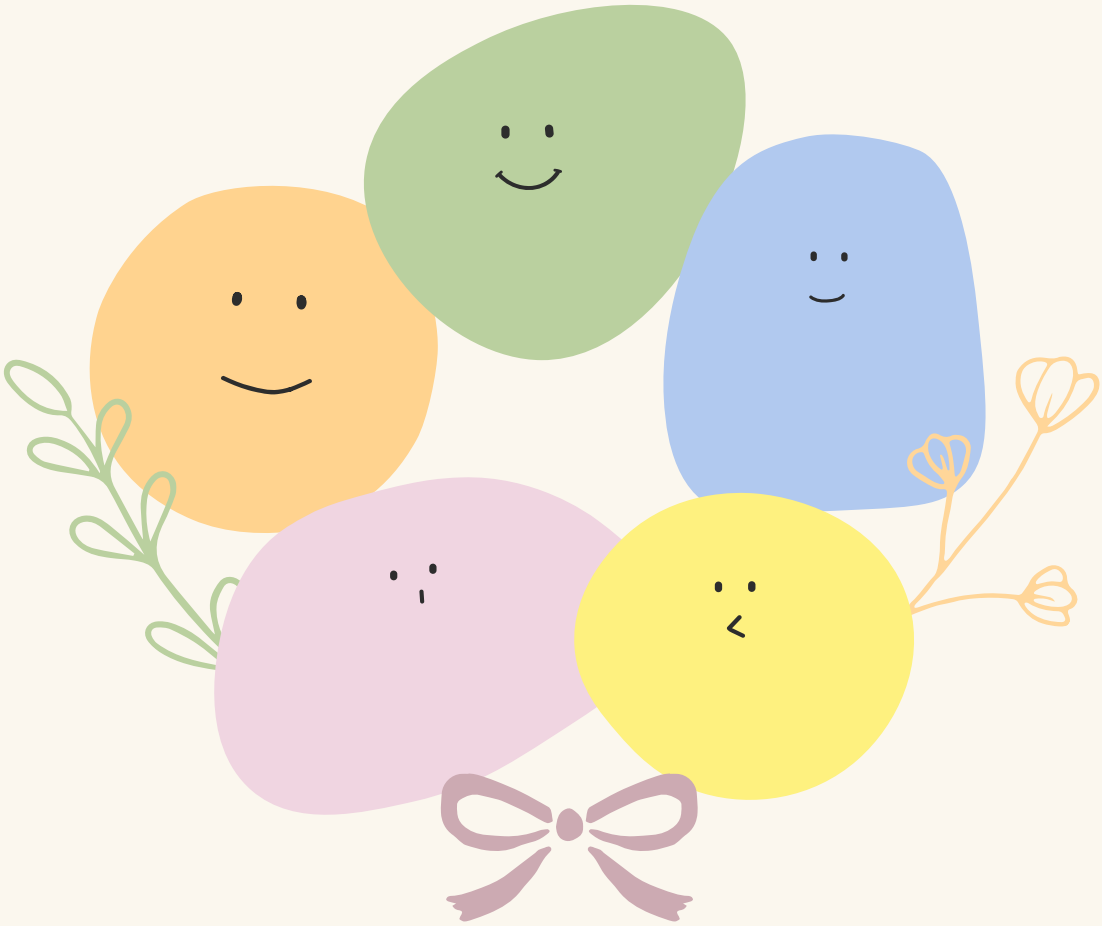
久万高原町地域福祉活動計画
第5次ともに輝く元気プラン

久万高原町に住むみんなの計画



令和8年度～令和12年度

目次

1

プランの概要

- 第5次ともに輝く元気プランとは
- プラン策定の経緯
- 地域福祉計画との連携

2

プラン策定過程

- 第4次ともに輝く元気プランの評価
- 久万高原町各計画の反映
- 座談会

3

第5次ともに輝く元気プラン

- 基本理念
- 基本目標
- 取組目標
- 地区ごとの目標

1　プランの概要

●第5次ともに輝く元気プランとは

地域での助け合いによるまちづくりをどのように推進していくのかを具体的に示した民間の活動・行動計画です。社会福祉協議会が呼びかけて、住民や行政、社会福祉に関する活動を行う者、社会福祉を目的とする事業者等が、連携・協力して策定します。全国的には地域福祉活動計画と呼ばれています。

●プラン策定の経緯

H17年度に第1次ともに輝く元気プランを策定（H18年度より実施）後、社会情勢や福祉施設等の変化に伴い5年ごとにプランの見直しを図っています。

- 第1次：H18年度～H22年度
- 第2次：H23年度～H27年度
- 第3次：H28年度～R２年度
- 第4次：R３年度～R７年度
- 第5次：R８年度～R12年度

New!

●地域福祉計画との連携

市町村が策定する地域福祉計画とは、地域福祉を推進していくための理念や仕組み、総合的な方向性を示したものです。久万高原町においては、R6.3に第3次久万高原町地域福祉計画が策定されています。連携のとれた地域福祉活動の実践を目指します。

2　プランの策定過程

●第4次ともに輝く元気プラン評価

天空の郷地域福祉推進委員会及び住民アンケートにより評価をしました。

天空の郷地域福祉推進委員会	R6.7.18 民生児童委員や集落支援員、町内福祉事業者等が集う。
構造化面接アンケート	R7.5.1～8.20 R7.4時点の校区別人口と高齢化率を加味して、旧町村単位で調査人数を設定。

●久万高原町各種計画の反映

下記計画内容を参考にし、計画に反映しました。

参考資料	第2次久万高原町総合計画
	第3次久万高原町地域福祉計画
	久万高原町高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画
	久万高原町第7期障がい者福祉計画及び 第3期障がい児福祉計画
	久万高原町子ども計画
	第2期久万高原町自殺対策総合計画

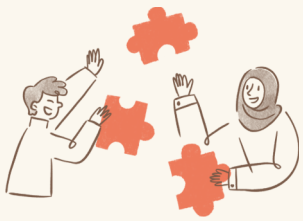
●座談会

地域のいいところや課題点、自分たちの望む地域について、自治会長や公民館長、民生児童委員等の地域を代表とする方々に聞き取り調査を実施しました。

地域	地区	実施日	人数
久万	久万	R7.8.8	12
	直瀬	R7.7.29	12
	畑野川	R7.7.28	10
	父二峰	R7.9.22	13
	明神	R7.7.30	9
面河	面河全域	R7.7.16	17
美川	黒藤川	R7.7.23	11
	仕七川	R7.6.25	15
	美川西	R7.8.28	13
	美川南	R7.7.8	11
柳谷	中津	R7.9.28	13
	西谷	R7.8.9	9
	柳井川	R7.7.24	24

策定過程において見えてきた地域課題や住民の想いは基本目標のページに記載しています。

これらをもとに天空の郷地域福祉推進委員会において意見交換を重ね、計画を策定しました。



3 第5次ともに輝く元気プラン

基本理念

温もりと安らぎのある住みやすい福祉のまち
みんなでつくる久万高原

温もりと安らぎのある住みやすい福祉のまち

誰でも一人ひとりが、温かみのある、落ち着ける住みやすいまちづくりを目指すという考え方です。

みんなでつくる久万高原

一人でできないときには、みんなの支えに助けられること、一人で解決するのではなく、みんなで連携・協働していくこと、すべての人が関わることが大切という考え方です。

Point!!

目指す形
行動の指針

基本目標

みんながわくわく楽しめる仕組みづくり
みんなでつながり支え合う関係づくり

当町の現状や地域福祉活動計画、座談会から見えてきた課題や希望を基に、基本目標を設定しました。

地域における助け合いの関係づくり

- 地域組織活動への参加者減少
- 地域づきあいの希薄化
- 助け合いを「必要だと思う」人は9割弱

地域福祉を担う人材育成

- 活動に関わる人材の育成
- 福祉教育の充実
- 意識啓発

関係団体等との地域ネットワークづくり

- 団体間の連携に向けた交流機会の充実
- 地域ネットワークづくり

支援を必要とする人等への情報提供と相談窓口の周知

- 気軽に困りごとを相談できる相談窓口
- 福祉情報の充実
- 助け合いの場や組織の情報を得やすくする

住民の求める地域像

- 現状維持（同じように）
- みんなで助け合う（共助）
- 楽しみ（笑う）
- 若い人がいる
- 住み続けられる

住民ができること

- 声をかけ合う、集う、参加する
- 地域や世代を越えて協力する
- できることをする、活動を続ける
- 人材育成、SNSの発信

取組目標

1　意見を集める

　社会情勢の変化により、価値観が多様化しています。それぞれのペースに合わせて地域活動に参加できたり、様々な形でつながることができるよう、意見を集めます。

1. いろいろな人が集まって意見交換をする
2. どんな感情も否定しないで互いを認め合う
3. 支援が行き届いていない人の声に気付く
4. 意見を言えない人の気持ちに気付く

取組目標

2　活動を継続する

様々な団体が組織されており、それがつながりの拠点となっています。しかし、活動を続けたい、参加をしたいと思っていても、運営の負担や移動手段などが妨げとなっています。内容を見直し、他機関と連携しながら活動を続けます。

1. 今している活動を見直す
2. 無理なく続けられる方法をみんなで考える
3. 小さな集まりや会を大切にする
4. 参加者も運営側も楽しむ

取組目標

3 参加のきっかけづくり

人口減少、少子高齢化の当町では、関係人口を増やしていくことが必要となっています。活動に関心を持ってもらえるように情報発信に力を入れ、遊び心のある企画をして、参加のきっかけをつくります。

1. 気軽に参加できるイベントを企画する
2. 関係人口を増やす取り組みを検討する
3. 拠点を利用したイベントを企画する
4. 町内外、老若男女、誰にでもわかりやすい情報発信をする

取組目標

4 交流機会・居場所づくり

人口減少や少子高齢化の影響もあり、地域付き合いが希薄化しつつあります。これからもつながりを維持できるように、子どもからお年寄りまで、気軽に集まれる機会や場をつくります。

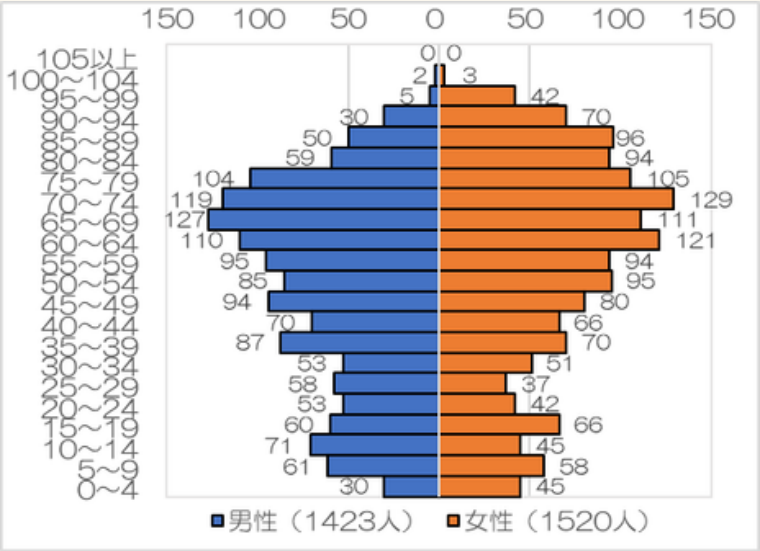
1. 出会いの場所をつくる
2. 子どもからお年寄りまで誰もが交流する機会をつくる
3. 話せる場をつくる
4. 好きな時に行ける場所をつくる

地区ごとの目標

地域	地区	目標
久万	久万	元気で楽しく住み続けたいと思える地域にしたい
	直瀬	地域の文化や資源、つながりをいかして5年後も同じように活動できる地域にしたい
	畑野川	ささやかな活動を続け、地域の人に喜んでもらえる地域にしたい
	父二峰	ふじみね再生2030～共助豊かな地域～
	明神	みんなで相談しながら、協力していく地域にしたい
面河	面河全域	一人にならないようにみんなで助け合って暮らせる地域
美川	黒藤川	5年後もみんなで会いたい 大きな期待はせず、現状維持ができたら御の字
	仕七川	仕七川の今の状態を守りたい みんなで声をかけ合える地域にしたい
	美川西	朗らかに楽しく過ごせる地域にしたい
	美川南	ケンカもせずに笑って過ごせる地域、若い子が帰ってきたくなる地域にしたい
柳谷	中津	5年後もみんなが元気に活躍している姿を見たい 昔のように活気のある中津にしたい
	西谷	「西谷はいいところ」と言ってもらえ、長く住み続けられる地域にしたい
	柳井川	若い人（人材）がいる地域にしたい イベントや大切な場所を残せるような地域にしたい

久万

元気で楽しく住み続けたいと思える地域にしたい



●人口：2,943人
●世帯数：1,564世帯
●自治会数：49組

□　助け合う

現在も乗り合いで買い物に行く等の助け合いが行われている。今後、免許を返納して生活に困る人が多くなると思われる。移動に限らず、困った時に助け合いができるよう、現段階から日常的に助け合いを行っていきたい。

□　声をかけ合う

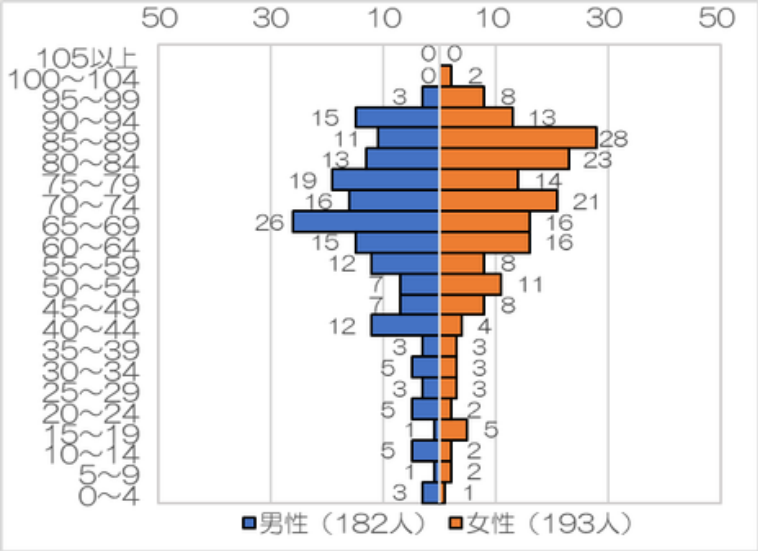
自治会の集まりが減少したり、世代によってはつながりが希薄化したりしているところもある。人口減少、高齢化しているからこそ、顔を見かけたらなるべく声かけをし、横のつながりを作っていきたい。

□　集う

高齢化により、高齢者中心の集まりが多くなってきているが、世代に関わらず、子どもから高齢者みんなで集まる機会が欲しい。また、老若男女全員が元気でいるためにも集うことを大切にしたい。

直瀬

地域の文化や資源、つながりをいかして5年後も同じように活動できる地域にしたい



●人口：375人
●世帯数：227世帯
●自治会数：13組

□　文化を継承していくために「伝える人」の育成をする

直瀬地区では川瀬歌舞伎やししまい、神輿等の文化が継承されている。現在、川瀬歌舞伎は後継者が確保されている。今後も文化を継承していくために、次世代に「伝える人」の育成に取り組みたい。

□　つながりを大切にしていくために地域の活動に参加する

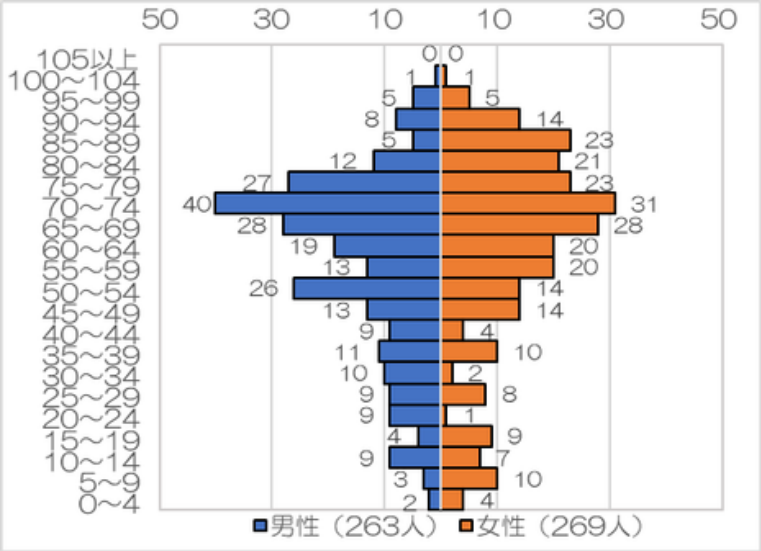
健康で長生きするためには人中に出て、誰かとつながることが大切である。公民館活動や自治会、小学校行事や地域行事等、多くの活動に参加することで人とのつながりを大切にしていきたい。

□　若い人を増やすためにSNSを活用して情報発信をする

人口減少という課題が生じているが、特に若者の減少が顕著である。下直瀬地区では有線放送があり、地域行事について放送があるため、人が集まりやすい。地域の行事ごとの際には、直瀬地区や町内から転出してしまった若者に帰ってきてもらうためにもSNSを活用していきたい。

畑野川

ささやかな活動を続け、地域の人に楽しんでもらえる地域にしたい



●人口：532人
●世帯数：310世帯
●自治会数：19組

□　上畑野川、下畑野川関係なく、協力して地域の活動をする

現在、畑野川地区では上畑野川、下畑野川それぞれの公民館で活動を行っている。しかし、人口減少、公民館役員の高齢化等の課題が出てきていることから、今後は公民館活動や地域活動を上・下関係なく、協力して行っていきたい。

□　お互いに安否確認をし、声をかけ合う

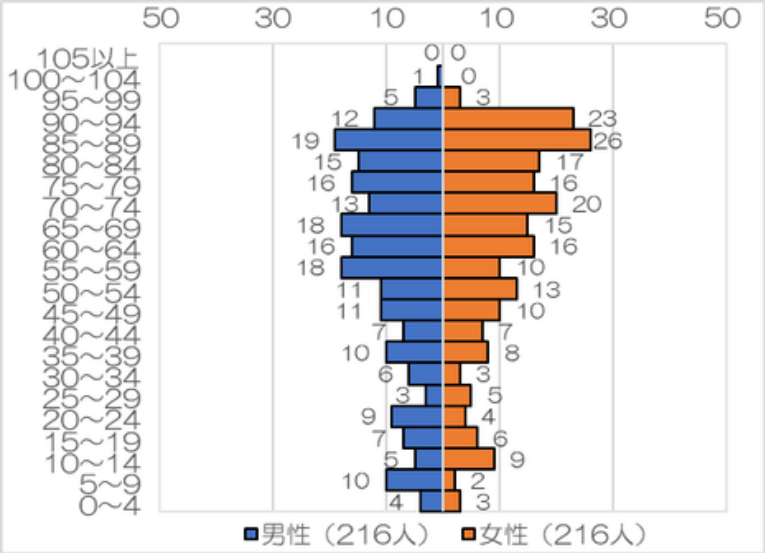
地域内には地域をよく見てくれ、気にかけてくれている人がいる。しかし、人口減少、高齢化が進んでいる現在、受け身になるのではなく、お互いに安否確認を行い、声をかけ合っていきたい。

□　外出して、人と話す

お店の閉店により、人に会う場所や機会が減少している。元気で過ごすためには人と会うこと、話すことが重要であり、地域内で気軽に出かけられる場所を求めている。高齢になると家に引きこもりがちになるが、地域みんなが元気で過ごすためにも外出して人と話す機会を作っていきたい。

父二峰

ふじみね再生2030
～共助豊かな地域～



●人口：432人
●世帯数：234世帯
●自治会数：19組

□　子どもが楽しいと思う場所や機会を増やす

現在、父二峰小学校では地域について学ぶ地域探検や伝統文化に取り組む時間が設けられており、郷土愛を育んでいる。将来、子どもたちが父二峰地区から転出しても、帰省して地域の行事に参加したり、伝統文化に関わり続けてほしい。そのため、子どもたちが「ふるさと」を大切に思う気持ちを育むきっかけになる場所や機会を増やしていきたい。

□　町外に転出した人にも地域の情報が行き渡るように情報発信を行う

人口減少、高齢化により、父二峰地区に住んでいる人だけでは、地域行事、伝統文化の継続が困難になってきている。現在も町外に転出した人の協力があることで、何とか継続できている状態。父二峰地区で行われる行事の情報を転出した人にも行き渡るように情報発信を行うことで、父二峰地区出身の多数の人に行事に参加してもらいたい。また、そうすることで地域の行事や伝統文化を継続していきたい。

□　見守り合い、声のかけ合いをする

父二峰地区では現在も近隣同士の見守り合い、声のかけ合いが行われている。今後も人口減少、高齢化、独居高齢者の増加が予想されるため、見守り合い、声のかけ合いを継続していきたい。また、日頃から地域内で見守りを行っておくことで、災害時に助け合えるようにしておきたい。

□　避難所の見直しを行う

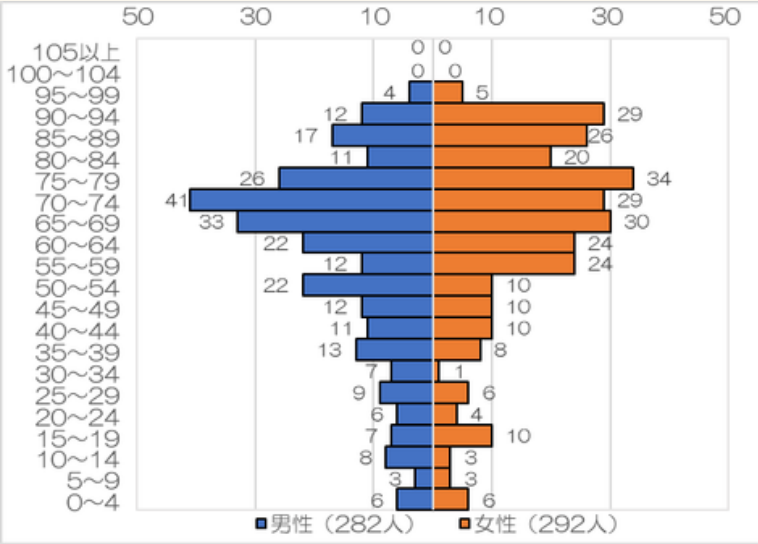
　避難所になっている場所も老朽化が進んでいたり、土砂災害警戒区域に指定されていたりと危険性が高い。また、各地域に自主防災組織はあるが、機能していない状況である。災害時に安心して避難が行えるように避難所の見直しを行っていきたい。

□　林業や農業を継続して行う

　人口減少が進んでいるが、特に若者の減少が著しい。進学や就職を機に転出する子どもや若者が多いことが大きな要因である。仕事がないため転出するという若者もいるが、父二峰地区は林業や農業が盛んである。これらの産業を継続して行っていくことで、仕事（林業、農業）があることや産業の魅力を若者に伝えていきたい。

明神

みんなで相談しながら、協力していく地域にしたい



●人口：574人
●世帯数：329世帯
●自治会数：16組

□　下っていくスピードをゆるめる

時代とともに、人口減少、高齢化、行事ごとの減少・衰退など地域内では多くの事柄が下向き傾向になっている。この減退を止めることはできないが、まずは現実を受け止め、悲観的にならないようにしていきたい。

□　「助けて」と気軽に言える横のネットワークを強化する

人口が減少している今、互いに助け合うしかない。しかし、遠慮して「助けて」と言えない人も地域にはいる。そのため、一言掛け合い、「助けて」と気軽に言える横のネットワークを強化していきたい。

□　引っ張っていく人を支える

地域内での活動や行事などには「引っ張っていく人」、いわゆるリーダー的な存在が重要である。その「引っ張っていく人」を支えていきたい。

□　仲間を増やす

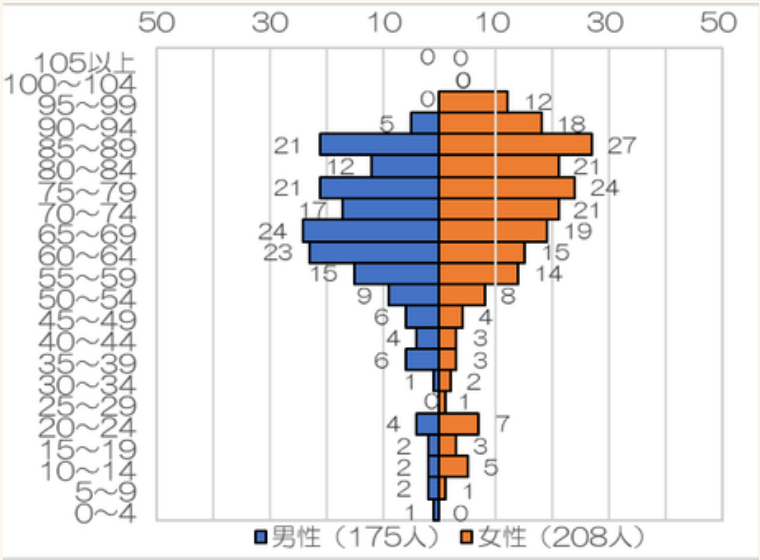
人口減少、高齢化により、農業や地域活動の担い手が不足してきている。また、明神地区には百歳体操やオカリナ教室等の地域住民の活動の場がある。担い手不足の解消や活動の継続のためにも、一緒に活動をする仲間を増やしていきたい。

□　大人、子どもみんなで話せる環境を作る

同世代のつながりはあるが、世代を越えたつながりは希薄化している傾向がある。地域のことについて、世代関係なく、みんなで話せる環境を作っていきたい。

面河

一人にならないようにみんなで助け合って暮らせる地域にしたい



●人口：383人
●世帯数：249世帯
●自治会数：9組

□　これからも助け合ってみんなと仲良く暮らしたい

各地区は少人数になっているが、地域住民同士で互いに見守り、おすそ分けをする等、助け合いの気持ちの強い地域である。ボラ連やだんだんおもご、公民館行事等でみんなが集まる活動を続けることができている。今後も困ったときに「助けて」「手伝って」と言い合える関係を続け、地域で支え合いながら仲良く暮らせる地域でありたい。

□　地域活動を続けたい

現在だんだんおもごの交通部会、福祉部会、観光部会の活動は、住民の力を合わせることで継続することができている。また、夏祭りや運動会、秋祭り、ふるさと祭りなどの地域行事、伝統文化の継承を、面河地区全体で協力しながら継続することができている。しかし、自治会数が５年前から比べ1組減少して9組となっている。人口の減少や高齢化により地域活動の担い手が少なくなってきているという課題はあるが、公民館活動やサロンなど協力しながら今できている活動を続けていくことで、地域全体が元気に過ごしていけるように活動を続けたい。

□　できることを頑張りたい

田んぼで米を作ったり、お茶や畑などの作業をしたり、高齢になっても自分で家事等をしながら自宅で生活を続けている。難しいことは、周りやサービスに頼ることもあるものの、自分でできることを見つけながら生活している。田畑で作物を育てたり、ボラ連やだんだんおもごの活動に参加したり等、自分の得意なことやできることを続けながら、住み慣れた地域で、馴染みの仲間と共に生活を続けることができるように頑張りたい。

□　5年後もみんなでわちゃわちゃいえる地域にしたい

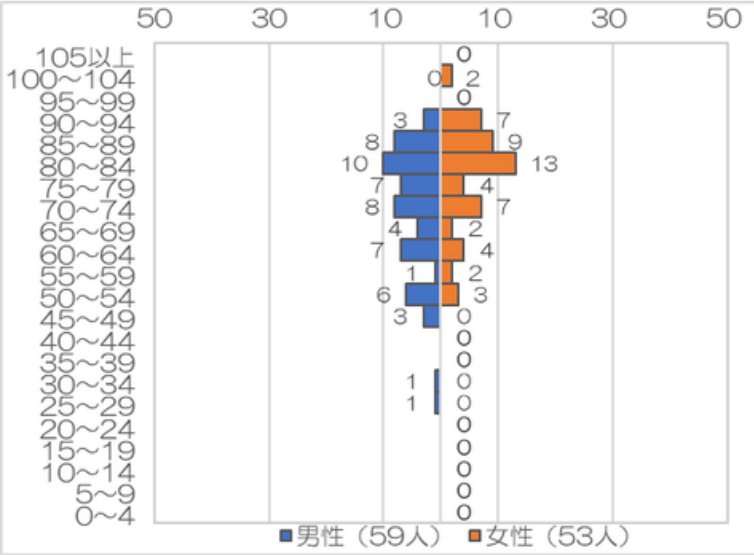
家では一人で話し相手がいない人も、地区での活動で集まる場があることで、話をしながら楽しんで活動を続けることができている。ボランティア活動等も「楽しんでやる」という気持ちを一番大切にして、自分たちも周りもみんなが楽しんで過ごせるようにと活動している。5年後も自分たちが楽しみながら集まり、にぎやかに過ごせる元気な地域にしていきたい。

□　今の活動、生活の維持ができるようにしたい

多くの人が互いに協力しながら、畑をしたり、地域活動に参加したりしている。退職をした後でも得意なことや自分にできることを活かして地域に貢献している人も多く、地域力となっている。難しいことは周りに助けてもらいながら、住み慣れた地域での生活を続け、今の活動を工夫しながら続けていきたい。

黒藤川

5年後もみんなで会いたい
大きな期待はせず、現状維持ができたら御の字



●人口：112人
●世帯数：81世帯
●自治会数：7組

□　元気でいたい

黒藤川地区は24歳以下の世代がおらず、若い人と関わる機会は子どもや孫が帰ってくる時くらいである。また、高齢化率75%と高齢者が地域を支えている状態である。5年後も帰ってくる子や孫を迎えたり、みんなで笑い合えたりできるように、自分たちが元気でいたい。

□　楽しく活動したい

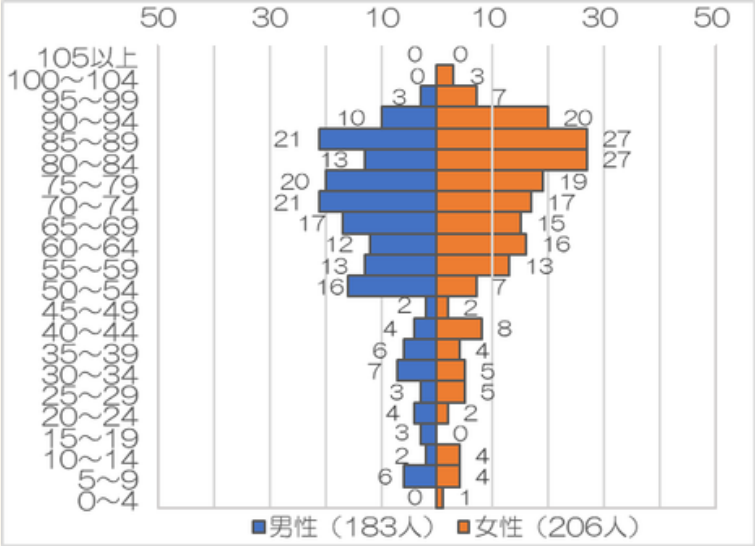
自分で生活できる間は、慣れたところで過ごしたいという思いがある。子どもや孫に作った野菜をあげたり、お花を育てたり、ご近所さんにおすそ分けをしたりすることが、日々の喜びや楽しみになっている。これからも自分たちのペースで、楽しく活動をしたい。

□　集まり続けたい

黒藤川地区にはつづらがわサロンがあるが、大勢の集まりは高齢化により難しくなってきている。また、公民館で行っている清掃活動は、年々参加者が減ってきている。人と会って話すことは、元気をもらえるだけでなく安否確認にもなるため、必要だと感じている。無理のない範囲で、2～3人の小規模での集まりや、公民館活動等の集まりを続けたい。

仕七川

仕七川の今の状態を守りたい
みんなで声をかけ合える地域にしたい



●人口：389人
●世帯数：238世帯
●自治会数：13組

□　元気でいたい

仕七川地区には登山やあゆ取り、お菓子作り等の趣味を持つ人や、地域行事を通して役割を持ち活動している人もいる。今後も趣味活動や地域行事を楽しみながら継続し、住み慣れた地域で生活をしていくために、自分のことは自分でやり、元気でいたい。

□　みんなで声をかけ合いたい

仕七川地区には、盆踊りやどんど焼きなどの地域行事や、自治会での奉仕活動などがあり、その際は多くの住民が集まっている。しかし、日々の生活では、高齢になり外出が難しくなったり、学校や仕事のために不在であったりと、人と顔を合わせる機会が減っている。独居や高齢者のみの世帯も多い中、お互いに気にかけあって過ごすためにも、地域のみんなで声をかけ合いたい。

□　地域の農地を守り続けたい

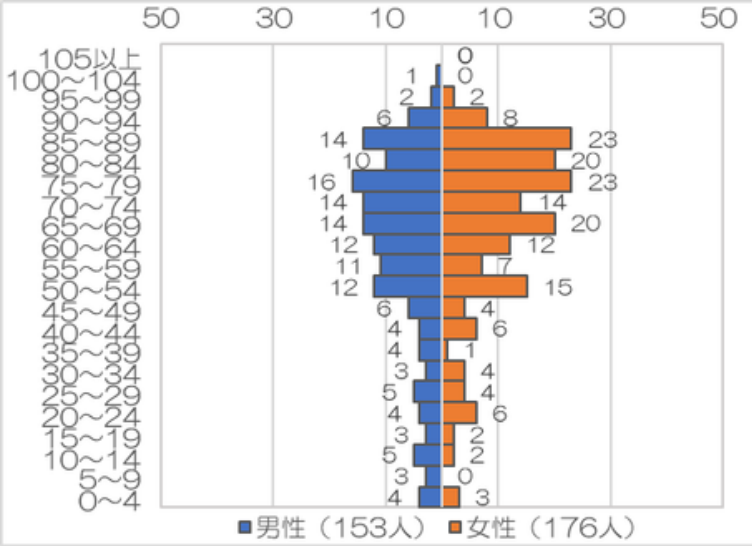
仕七川地区では、特産品を作って地域のPRをしたいという思いから地芋やもち麦等を作っている。それらを活用して、じゃがたらくんやシフォンケーキ、パン等の加工品を作ることにも繋がっている。農家の担い手不足や高齢化による作り手の大変さはあるが、地域を活性化するために、農地を守り続けていきたい。

□　5年後も子どもの声が聞こえる地域にしたい

仕七川小学校には12名の児童がいる。不便でも幸せを感じてもらえるように、地域と子どもが関わる行事を行っている。また、放課後児童クラブが近くにないため、その受け皿として、絆の会では「放課後こども教室」を運営している。子どもたちと関わる中で、楽しさや元気をもらっているため、5年後も子どもの声が聞こえる地域にしたい。

美川西

朗らかに楽しく過ごせる地域にしたい



●人口：329人
●世帯数：202世帯
●自治会数：19組

□　人数が減ったからこそ、助け合って現状を維持したい

美川西地区では、消防団の団員や組づきあいをする人が減ってきている。役は兼務が多く、他の人に変われない等の状況もあり、負担を感じている人もいる。最低限の行事は続けていきたいという思いがあるため、役や行事を見直して、負担感の軽減を図りつつ、住民だけでなく、2拠点生活の人や町外に住む子や孫等とも助け合っていきたい。

□　笑顔で元気に活動をしたい

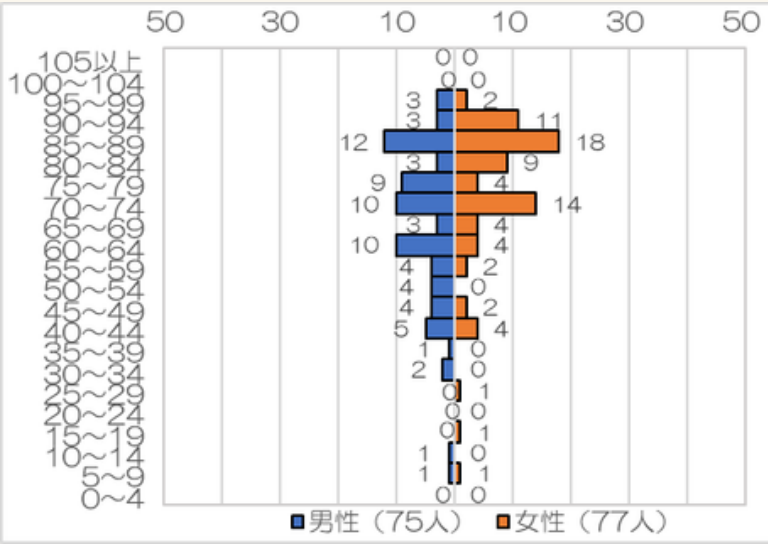
人と会うことや笑うことが健康には必要だと考えている。今後も百歳体操や組づきあい等、集まる機会には積極的に参加して、体力づくりや人と関わる機会を作っていきたい。関わる人たちへの感謝の気持ちを忘れず、笑顔で元気に活動したい。

□　美川西の観光資源をPRしたい

美川西地区は空気もよく、住みやすい地域だと感じている。また、大川淵や大川峰、有枝橋や御三戸橋等、観光資源は豊富にあるが、あまり知られていないのがもったいないと感じている。もっといろいろな人に知ってもらえるようにPRしたい。

美川南

ケンカもせずに笑って過ごせる地域、若い子が帰ってきたくなる地域にしたい



●人口：152人
●世帯数：101世帯
●自治会数：13組

□　住民同士で声かけ、見守りをしていきたい

美川南地区は地域の人たちで見守り育てた子供たちがおり、世代を問わず仲がいい。一方で、一人暮らしの高齢者が多く、災害時には孤立のリスクが高い。これからもおすそ分けや普段の関わりを大切にし、何かあった際にも助け合っていきたい。

□　他の地域の人も呼んで、行事を盛り上げたい

美川南公民館での夏祭りや南たすけあいの会での花畑イベント等、行事の開催に力を入れており、地区内外からも大勢の人たちが美川南地区に来てくれている。人口減少や高齢化による行事継続の難しさはあるが、地域に活気が出るため、これからも大勢の人に参加してもらい行事を盛り上げたい。

□　南たすけあいの会の活動を続けたい

南たすけあいの会では、地域の困りごとへの対応として草刈りを請け負っている。また、耕作放棄地を活用した花畑を作っている。今後ＳＮＳなどを用いて情報を発信しながら、地域での困りごとの解決や活性化に向けて、南たすけあいの会の活動を継続していきたい。

□　楽しみを持ち続けたい

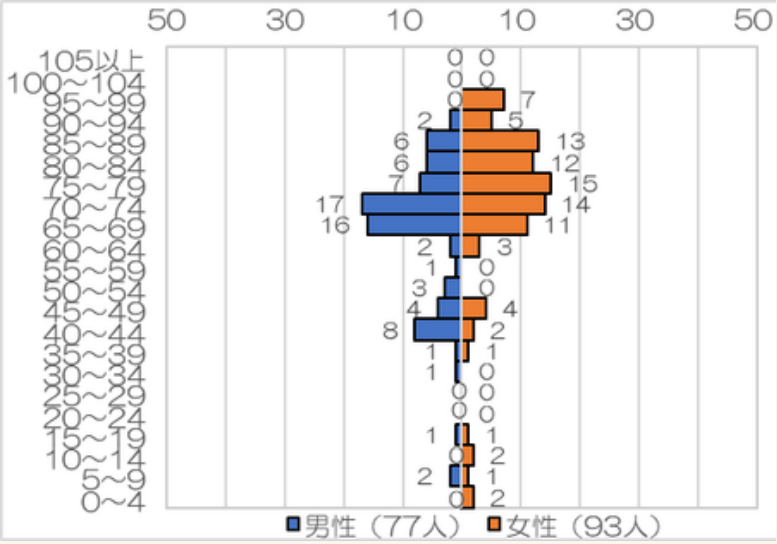
美川南地区には、集まって話すことを楽しみにしている人が多い。しかし、コロナをきっかけに、公民館で行っていたスポーツ大会など、集まる機会がなくなっていった。また、家が点在しており、高齢化で集まりに出られなくなった人もいる。今後もサロンを続けたり、井戸端会議や趣味で集まる機会を作ったり、楽しみを持ち続けたい。

□　新しいことに挑戦してみたい

農林業は久万高原町の主要産業であるが、天候に左右されやすい。また、求人は多いが職種が限られているため、若い人の多くが町外に出ている。やりたい仕事があったり、農林業で安定した収益を見込めたりすることで、若者が地元に戻ってくる選択肢を増やしたい。そのためにも、起業したり、収益が見込めるような方法を検討したり、新しいことに挑戦してみたい。

中津

5年後もみんなが元気に活躍している姿を見たい
昔のように活気のある中津にしたい



●人口：170人
●世帯数：104世帯
●自治会数：7組

□　みんなでできることを頑張って現状維持

中津地区は、西村大師堂のしだれ桜をはじめ、花桃の里、芝桜等が有名であり、町内外から観光客が集まる場所である。また、温かい人が多く、人柄が良いことが中津の魅力の一つであり、地域のみんなで環境維持をしたり、さくらまつりを運営したり、一致団結して地域を盛り上げている。しかし、高齢化が進み、イベントの継続、田んぼや畑、花の手入れもしんどくなりつつある。今後も高齢化や人口減少は進行すると思われるが、現在活躍している世代が5年後も元気に中津で暮らし、現状を維持していきたい。そして、中津の魅力である人柄の良さを活かし、今後もみんなで無理せず協力してできることをしていきたい。

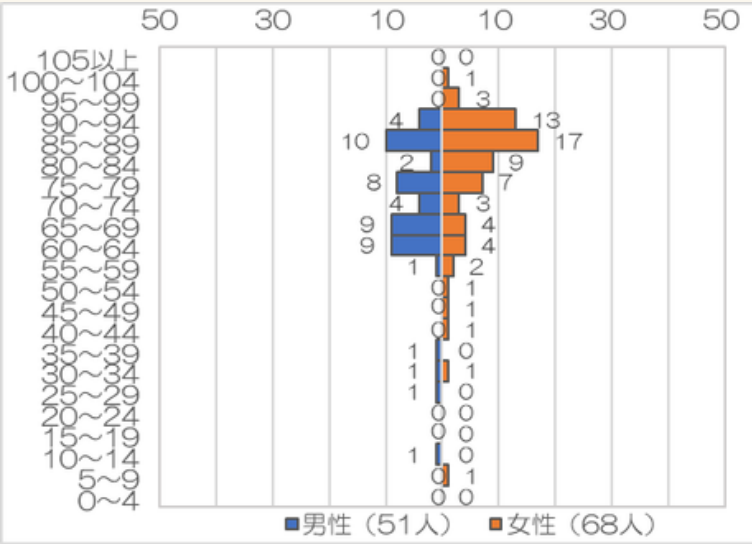
□　楽しいことをしていこう

コロナ禍を経て、地域で行われていた行事や集まりが徐々に減少し、以前よりも活気がなくなっていることを実感している。現在は、新しいことをやりたい気持ちはあっても、人手不足や体力面の課題から実現が難しく諦めることも多々ある。しかし、「昔のように活気のある中津」にしたいという思いは強く、今後はみんなで楽しいことをしていきたい。

具体的には、月に1回程度でもみんなが集える場所（居酒屋・スナックなど）を開催できたらいいなと思っている。

西谷

「西谷はいいところ」と言ってもらえ、長く住み続けられる地域にしたい



●人口：119人
●世帯数：85世帯
●自治会数：11組

□　地域でできることをする

現在の西谷地区は団結力が高く、日々自然に助け合って生活している。今後人口減少が課題であるが、これまでのように団結し、今できていることを継続するとともに、困りごとが出てきた際には地域のみんなで解決していきたい。

□　みんなが元気に健康でいる

人口減少が課題に上がる中、現在できていることは継続したいという希望がある。そのため、まずは現在西谷地区に暮らす人たちが元気でいて、住み慣れた西谷に長く住み続けられるようにしたい。

□　協力して草刈りをする

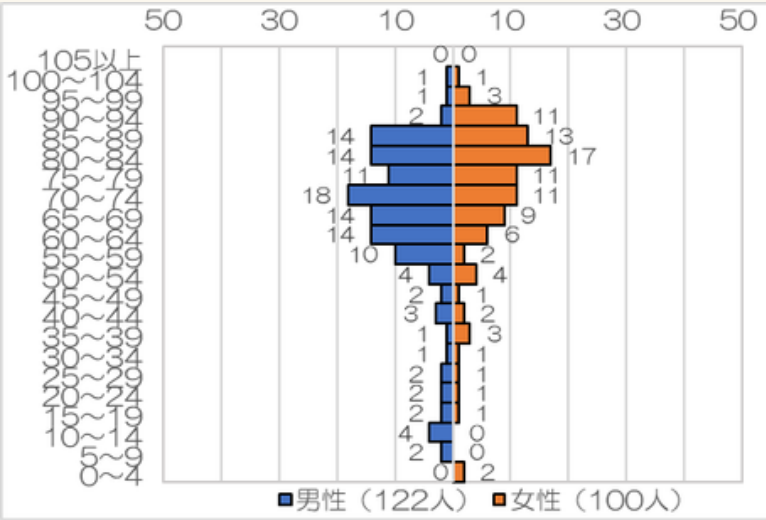
地域でできていることの代表として草刈りがある。まずは、草刈りを地域のみんなで協力して行い、今後も継続してできるようにしていきたい。

□　つながりを継続する

　ソフトボール大会や柳谷大運動会などの地域のイベントの際には、西谷出身の若い人が帰って来てくれる。若い人が帰って来てくれるため、地域のイベントも続けられるし活気も出る。今後も地元に帰って来てもらえるよう、今あるつながりを切らさないようにしたい。そして、西谷はいいところと言ってもらえるように頑張りたい。

柳井川

若い人（人材）がいる地域にしたい
イベントや大切な場所を残せるような地域にしたい



- 人口：222人
- 世帯数：142世帯
- 自治会数：10組

□　地域のことを若い人に教えたい

柳井川地区には、代々受け継がれてきた生活様式や豊かな技術・知恵を持った人がいる。しかし、地域で活躍されている方々の高齢化が進んでおり、今後の地域活動の存続に不安を感じている。そのため、これらの貴重な文化や知恵を次の世代へ継承し、地域の魅力を伝えていきたい。

□　現状維持をしたい

柳井川地域づくり協議会は、こいのぼりや提灯まつり、イルミネーション、ふれあい弁当などの活動を通じて、地域の人々のつながりを深め、柳井川地区の活力を高めている。今後は、協議会メンバーの高齢化が進み、活動の継続に課題はあるが、イベントを可能な限り継続して現状を維持したい。そして、柳井川地区にある大切な資源を残していきたい。

□　やってみたいことをできるようにする

柳井川地域づくり協議会では、「やってみたいことをやる」をモットーに地域の活性化に向けた活動を続けている。協議会メンバーが年々高齢化しているが、5年後も「やってみたい」を実行している柳井川地区を目指したい。

□　みんなで元気に長生きできるよう頑張りたい

　柳井川地区は、50代以下の人口が極端に少ないという特徴があり、次世代の担い手不足が大きな課題となっている。若い世代に地域活動へ参加してもらいたいという願いはあるが、難しい現状がある。そのため、現在地域で活躍している世代が、元気に長生きし、地域の存続を支えていけるよう、力を合わせて頑張りたい。